

扶助者聖マリアのノヴェナ

5日目（5月19日 水曜日）

今の本当の望みを表現する。

⁵¹ イエスは、「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。

<コメント>

調布：ZOOM ロザリオが始まって、毎日共同体として皆で祈る生活が始まりました。そこには、日本人と多言語グループの交流がありました。コロナでミサに与れない多くの方々のご迷惑や、戸惑い、不安を抱える多くの信者がおりましたが、神父様がその望みをくみ取り、ZOOMの中でロザリオのみならず主日の福音の解説をはじめ、霊的聖体拝領や、聖体礼拝、毎日の分かち合いを通して私たちの根底にある望みを引き出してくださいました。イエスとつながってほしいという心の渇きをZOOMは満たしてくれています。

（藤永）

調布： 苦しい中、神の憐れみに信頼して必死に神の助けを求めている人々。

社会の中で困っている人に寄り添いましょう、と言うが、本当にその人々と共にあるのか？ どこか上から目線になっていないかを考えてしまう。弟子達が避けようとした人にもイエスは気付いて目をかけた。結果、目が見えるようになったのは（癒やされたのは）私で、イエスから「行きなさい」と送り出されているのかもしれない。

（後藤）

碑文谷： 私達は、コロナ以前の生活に戻れるのでしょうか？私達は、今こそ、コロナ後の自分の生き方を黙想しなければならないのでは、ないでしょうか？

今だけ、金だけ、自分だけの生き方を改めて、私達、一人一人が、家庭、周囲の人達、社会に対して、少しでも、お役に立てる生き方に変わらなければならないのでは、ないでしょうか？（山本）

土浦： コロナ禍の中で、新しい方法ZOOMで限られたメンバーとは会うことができるようになりました。大きな進歩です。参加が難しいメンバーにはLINEで報告したりもします。時々は声が聴きたいと電話したりもします。心が満たされます。一番の望みは、管区長館でADMAメンバーが顔をあわせ、扶助者聖母に見守られながら、ゆっくりミサに与ることができる日が来ることです。（江口）

Miryam Torres ミリアム・トレス

私は、このノヴェナに心を合わせます。

「あなたは何をして欲しいのですか？」「先生、見えるようになりたいのです。」

バルティマイの答えが、私の答えでもあります。

イエスによって、私も光が見えるようになりたいです。この光を必要としている他の人に、私も光を届けたい。特に私の家族、主人、息子、教会共同体に。一致の道具になるため、イエスやマリアを知らない若者たちに。彼らは叫んでいます、暗闇から出たいと。しかしどうすれば良いのか分からない。私たちはイエスの光を届ける道具にならなければなりません。彼らに、私たちが愛し守ってくださるマリア様がいることを知らせなければ。みんな元気を出しなさい、立ち上がりなさい。光があります。それはイエスです。彼らがバルティマイのように前の生活を捨て、イエスに従う新しい生き方を自分のものにすることができるように。マリアの温かい愛に包ま

れ、そして自分たちは一人ではないという確信を持つことができるように。私の最もおおきな希望は、みんながバルティマイのように見えるようになることです。

<扶助者聖母マリアのご像の紹介>

思い出の木彫りの扶助者マリア像（小野久美子さん）



20センチ位のもので、
ドン・ボスコ社で働いていた時、サレジアン・シスターズの誓願記念としてイタリアに沢山お願いして作ってもらったものです。
柄杓が折れやすく調布のサレジアン管区長館まで1人でお詫びに行きました。
沢山のシスターやそのご家族がこの像の前で毎日お祈りしておられると思うと、本当にうれしいです。

<最後の祈願（ドン・ボスコが作成した扶助者聖マリアへの祈り）>

「おお、マリアよ、力あるおとめ、
輝かしい教会の母、
素晴らしいキリスト者のたすけ、
戦いにあって配置された軍勢のような力を持ち、
世界のあらゆる異端をうちこわし、
不安や苦難、
困難にあってから私たちを守るマリアよ、
私たちが死を迎える時、
魂を受け取り、
天国へと導いてください。

アーメン」

<祝福>